

Jean-Baptiste Camille Corot

ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー (1796-1875)



作品名 平原で立ち止まる馬

種類 エッチング

サイズ 12.3×17cm

略 歴

19世紀の4分の3を生き、次世代の印象派との橋渡しをした画家である。詩情あふれる森や湖の風景画で知られるが、『真珠の女』のような人物画にも傑作がある。1825年から計3度イタリアへ旅行し、イタリア絵画の明るい光と色彩にも影響を受けている。理想化された風景でなく、イタリアやフランス各地のありふれた風景を詩情ゆたかに描き出す手法はのちの印象派の画家たちにも影響を与えた。

パリの裕福な家庭に生まれる。家族の反対もあって画業に専念出来るようになったのは26歳になってからである。コローは年齢的にはアングルやドラクロアに近いが画家としての出発時点ではディアズやデュプレに近い。古典的風景画家ミシャロン・ベルタンについて学び、

1825年最初のイタリア旅行をする

1827年サロンに初出品

1828年イタリアより帰国

1829年ノルマンディ・ブルターニュ・フォンテーヌブローに滞在

1831年サロンで二等賞

1834年二回目のイタリア旅行

1836年ラヴィエと共にオーヴェルニュに滞在している

1846年レジオン・ドヌール勲章を受けた

1848年サロンの審査委員に選出される

1854年オランダに旅行

1857年ドービニーとオーヴェルニュに滞在する

1873年フォンテーヌブローに最後の滞在

1875年ミレーの死の一ヶ月後に他界